

林業研究・技術開発推進ブロック会議育種分科会と高速育種運営会議を開催

9月～10月に、林野庁、林木育種センター、都道府県の連携による林木育種の推進を目的として、北海道、東北、関東・中部、近畿・中国・四国、九州の全国5ブロックにおいて、林野庁・森林総合研究所共催で林業研究・技術開発推進ブロック会議を開催しました。

林木育種推進地区協議会が平成24年度に林業研究開発推進ブロック会議と統合され、林業研究・技術開発推進ブロック会議育種分科会として開催されることになり、今年度から研究分科会と同じ場所・時期での開催となりました。

今年度の間伐特措法の改正により、特定母樹の増殖に国の支援が受けられることになり(詳細はp4)、林野庁からこの制度についての説明があり、育種センターからはこれまで開発してきたエリートツリーや花粉症対策品種の中から特定母樹を申請し、普及を進めていきたいと説明しました。

採種園の造成等を検討している都道府県等からは、特定母樹の認定基準や、エリートツリーや花粉症対策品種との関係について質問がありました。

この会議と併せて各ブロックでは高速育種運営会議も開催しました(関東地区は7月に開催)。高速育種運営会議は育種センター・育種場が主催で、エリートツリーと、今後は特定母樹の普及についても議題としていくこととしています。



9月17日に開催した関東・中部
ブロック会議

(企画部 育種企画課 天野里美)

小笠原の植物紹介

林木育種センターで研究・保存している植物をご紹介します。



ハハジマノボタン

学名: *Melastoma tetramerum* var. *pentapetalum*

ノボタン科は日本では馴染みの薄い植物のグループですが、熱帯・亜熱帯に4,000種以上が分布する大所帯です。小笠原諸島には花色や花弁の枚数が異なる固有種・固有変種が3種知られており、そのうち最も観察しやすい種が母島のみ分布するハハジマノボタンです。同島の最高峰・乳房山の周辺などで、初夏の頃に淡いローズピンクの花を咲かせている姿を見ることができます。また、桑の木山の試験地には、当センターと関東森林管理局によって現地の個体から育成された実生苗が定植されています。

(文責・イラスト: 遺伝資源部 保存評価課 大谷雅人)



※紙ヘリサイクル可

林木育種情報 No.14

平成26年1月7日発行

独立行政法人 森林総合研究所 林木育種センター

〒319-1301 茨城県日立市十王町伊師 3809-1

TEL: 0294-39-7000(代)

FAX: 0294-39-7306

ホームページ: <http://www.ffpri.affrc.go.jp/ftbc/index.html>